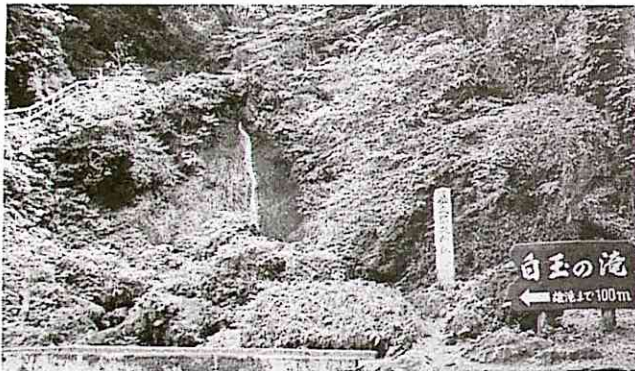


金津イヌシデ林の新津市文化財の指定について

平 慎 三

新津市金津集落の南方約1kmの丘陵地の谷あいには、名瀑「白玉の滝」があり、都市部に比較的近い自然の豊かな景勝地として四季を通して訪れる多くの人々に親しまれています。ここでは、玄武岩質等の基岩が露出して二つの滝が形成され、上流側から雄滝、雌滝と呼ばれています。一帯は、ケヤキ、コナラ、ウラジロガシ、ホオノキなどの大木や壮齢のスギ植林に囲まれ、良好な自然環境が形成されています。また、県内稀産のシダ類を始め多数の植物が生育しており、植物分布の上でも顕著な地域です。

この滝のすぐ上流側の斜面には、見事なイヌシデの自然林が成立しています。新津市内では、巨樹・巨木の調査が平成4～5年度に実施されており、この成果もふまえて、このイヌシデ林が新津市文化財（天然記念物）に指定されました。その内容は次のとおりです。（新津市教育委員会による。）



1、指定の概要

指定告示年月日	平成5年1月20日
名 称	犬四手（イヌシデ）叢林
所 在	新津市金津 1460 番地
員 数	1 箇所、約0.30ha
所 有 者	佐久那殿神社

2、指定の理由

新津の景勝地「白玉の滝」南側直上約 0.3ヘクタール程の地域に、樹齢約 100年～ 200年と推定される犬四手 50数本を主体とする極相林がある。

樹林内にはケヤキ、コハウチワカエデ、シロダモ、ウラジロノキ等、また低木層ではヒメアオキ、ヤブツバキ、チャボガヤ、ムラサキシキブ等が生育している。

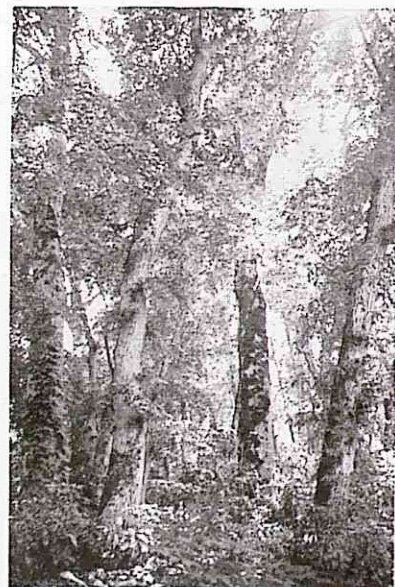
イヌシデは本州中部以南に多い落葉広葉樹で、新潟県では越後の中部以南と佐渡に見られ、単木として他の樹林と混交する場合が多い。イヌシデの優占する群落は、新津市

金津、五泉市橋田、村松町夏針、佐渡島の小佐渡等にあるが、他はその例に乏しい。

金津のイヌシデ叢林一帯は、佐久那殿神社の社叢林として維持されてきたもので、分布の北限に近く、県内稀少のものであり、ひとたび消滅すればその復元は極めて困難といわれ、大変貴重である。

筆者は、現在新津市に在住していますが、このイヌシデ林は、全県の視点から重要であるとともに、市内に残存する唯一の自然林であります。このため、当地方の本来の自然の姿の一端を知るため、子々孫々に至るまで将来にわたって継承されるべき大変貴重な財産と考え、かねてより何らかの保護対策のとられることを願っていました。このたびの指定につきまして、市教育委員会及び市御当局並びに市文化財調査審議会委員、地元関係者等に対しまして心から敬意を表するものであります。そして、県内各地で残されている大切な自然が関係者の合意により、本件のように保護、保全及び適切な活用のなされてゆくことを願っているものです。

- 文献 新津市教育委員会理科部（1965）秋葉・金津の植物
平 慎三（1983）金津のイヌシデ林 新潟のすぐれた自然 p. 418 - 419 新潟県
佐藤和彦（1991）新潟県新津市白玉の滝のシダ植物
新津市教育委員会（1993）緑の文化財 新津の巨樹・巨木 p. 318



イヌシデ林の林内